

## 論文審査の結果の要旨

氏名：渡辺紀子

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：神経芽腫群腫瘍におけるソマトスタチン受容体サブタイプ発現に関する臨床病理学的検討

審査委員：（主査） 教授 増田しのぶ

（副査） 教授 榎島誠 教授 石原寿光

教授 吉野篤緒

本研究は、神経芽腫群腫瘍におけるソマトスタチン受容体(somatostatin receptor; SSTR)の亜型 **SSTR1-5** の発現状況を明らかにする目的で行われた。

本研究の内容は、(1) 神経芽腫群腫瘍 63 例のホルマリン固定パラフィン包埋材料(FFPE)を用いた免疫組織化学的検索、37 症例の FFPE を用いた qRT-PCR 法による **SSTR1-5** 発現状況に関する検索、(2) 正常副腎髄質および交感神経節(胎生 6-7 週相当~72 歳)における **SSTR1-4** の発現状況に関する検索、(3) 神経芽腫において発現が報告されている分子(ソマトスタチン、シナプトフィジン、CD44、PHOX2B、SOX10)に関する検索から構成されている。

結果として提示された内容は次の通りである。(1) **SSTR1-4** 蛋白の陽性率は、分化傾向のある組織型(ganglioneuroma; GN, ganglioneuroblastoma; GNB)のほうが neuroblastoma(NB)よりも陽性率が高い傾向がみられ、International Neuroblastoma Pathology Classification (INPC)分類の favorable(F) group のほうが unfavorable(U) group よりも有意に陽性率が高かった。また、**SSTR1,3,4** については、生存例の方が死亡例よりも陽性率が高い傾向にあった。qRT-PCR 法による **SSTR1mRNA** 発現量は、INPC 分類の F group のほうが U group よりも有意に発現量が高かった。**SSTR1,4** については、陽性例は陰性例に比較して有意に全生存率が良好であった。(2) 出生後の副腎髄質および交換神経節と GNB/GN の **SSTR** 発現プロファイルは類似していた。(3) 神経芽腫関連分子の中で **SSTR** との関連性が示唆された分子はソマトスタチンであった。NB に関する COX 比例ハザードモデルによる単変量、多変量解析で、**SSTR** は有意な因子として抽出されなかった。

以上のように、本研究は臨床的意義の高い優れた研究で、学位論文としてふさわしいとして評価された。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成27年 6月24日